

被災現場より何を学ぶ？今後の事業にどう生かす？それは、あなた次第！（Pt. 2）

近年の異常気象の影響で、日本の各地で、過去に例を見ない災害が発生しています。あの、九州北部豪雨被害から、すでに2年あまりが経ちました。当事務所においては、所内研修の一環として、被害箇所の現場視察を実施しました。10月24日（金）に実施した、日田・山国地区の被災箇所見学会は、11名が参加。現場では、復旧状況の確認や復旧事業等の説明を受けました。

九州北部豪雨被災現場からの現況レポート②



1 力所目

筑後川水系花月川 激甚災害対策特別緊急事業・災害復旧関連事業
筑後河川の日田出張所橋本技術係長より、花月川豪雨災害とその特徴、被害状況と今後の対策について、説明を受けました。

説明をされる橋本係長



現場にて説明を受ける職員



河床掘削が進む現場



日田地区は、2週間で2回の被災を受けました。花月川河川敷は、毎年「日田灯笼まつり」が行われており、急ピッチで復旧が行われ、復興のシンボルとして実施されました。激甚災害対策特別緊急事業は、平成24年度から約5年間で実施され、災害復旧関連事業は、全20箇所で開催される予定です。

被災箇所の復旧状況



2カ所目
(説明)

山国川河川（耶馬溪ダム） 山国川床上浸水対策特別緊急事業
山国川河川の篠崎事業対策官及び吉田専門官より、床対事業の概要やダム模型による耶馬溪ダムの役割について、説明を受けました。

説明をされる篠崎氏



説明を受ける職員



ダム模型による説明



山国川は、2週間で2回の被災を受けました。
床上浸水対策特別緊急事業は、平成25年度から約5年間（15k400～25k600の区間：14地区）で実施されるそうです。

事業の**コンセプト**は、以下の内容となります。

『山国川の渓流は、名勝耶馬溪、史跡青の洞門に代表されるように奇石・新緑・紅葉、清流が織りなす四季折々の自然環境に恵まれ、流域の大半が耶馬溪日田英彦山国定公園区域に指定されている。
よって、**山国川の美しい流れとその周辺の奇石・秀峰が織りなす良好な河川環境との調和を図り、昔ながらの素朴な風景を後世に残せるように、景観に配慮した整備に努める。**』

2カ所目
(現場)

山国川青の洞門（中津市青地区） 事業の多自然かわづくり
山国川の「青の洞門」における、復興状況について、工事の進捗状況について確認を行いました。

観光資源の「青の洞門」



調査を行う参加者



景観に配慮した護岸



山国川には、観光資源として「青の洞門」があり、被災時は大打撃を受けました。
現在、11月の観光シーズンに向け、急ピッチで復旧作業中でした。
「紅葉には、ちょっと、来るのが早かったかな！」



九州北部豪雨、被災現場より学ぶ！《第1弾》は、ここへ ↓

http://10.29.8.83/企画課/Hot News/Vol_8956/index.html

発信者、思いを語る。



九州北部豪雨被害の当時、私は病で約3週間の入院中（久留米市）でした。被災当日、院内で知り合った、同じく入院中の日田市職員の方から、同市内の被災状況写真を見せてもらいました。

当時勤務していた「ダム統管」時、松原・下笠ダムや市役所へ行く途中の街並みが、花月川の決壊で浸水状態でした。

さらに、復旧作業がほぼ完了した1週間後に、また、同じ河川が決壊し、同じ街並みが冠水状態になるとは、想像を超えた出来事でした。



2週間で2回も決壊した花月川では、毎年11月に「日田天領まつり・千年あかり（灯笼まつり）」が実施されていました。

河川敷がほぼ壊滅状態になった同河川で、当年に実施するのは、厳しいのでは？との意見が出ていました。

しかし、『「復興のシンボル」としたい。』との、地元実行委会の意欲や筑後川河川事務所の懸命な復旧作業の頑張りが有り、同年の祭りが開催された事が思い出されます。

ちなみに、「ダム統管」でも樹林帯の伐竹材を提供し、まつりに貢献することが出来、復興に一役買えたと思った次第です。

（M専門職、思いを語る・・・。）

花月川河川敷の
「千年あかり（竹灯笼）」
日田市HPより



編集後記：残る余年をフルに活用し、残る土木者のために・・・。

今回実施した2回の視察は、「災害等の発生した現場を視察し、復旧工法や復旧状況を確認し、今後の事業に反映させる。」事を目的に企画調整しました。

それは、(現職)余年も後わずかの私が、今まで培ってきた知識や人脈をフルに活用し、自らが、武雄河川の“いしづえ”基礎”捨て石”となり、残る土木者の技術向上に、一役貢献できればとの思いで、実施しました。

参加された方々が、今回の見学会で学び感じた事が、今後の現場実践で何らかの参考になるのであれば、私も思い残すことなく、現職を卒業できるのではと・・・。

最後に、視察現場で、説明をして頂いた各現場の方々に感謝いたします。

引率責任者(すてい氏)談